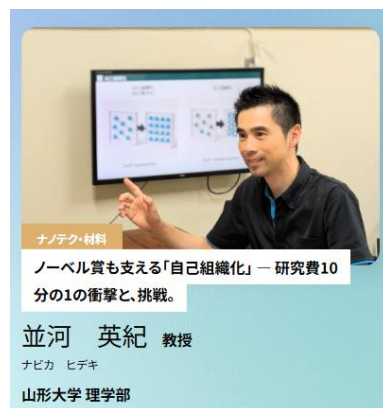


令和7（2025年）年11月6日

研究者への応援寄付プラットフォーム「iDonate（アイドネイト）」を新たに導入 ～ “共感で未来を拓く” 新しい形の寄付システム ～

【本件のポイント】

- 山形大学基金は、外部資金の多様化を推進する新たな取り組みとして、研究者への応援寄付プラットフォーム「iDonate（アイドネイト）」を導入しました。
- iDonateでは、クラウドファンディングのような特定プロジェクトではなく、寄付者が「共感」した研究者個人の研究・教育活動全体を継続的に支援できます。
- 山形大学では、理学部 並河教授らによる特色ある寄付募集がすでにスタートしています。



【概要】

山形大学は、教育・研究・社会貢献活動を支える「山形大学基金」の新たな展開として、より多くの方に本学の研究活動への支援に「共感」し気軽にご参加いただけるよう、**研究者への応援寄付プラットフォーム「iDonate（アイドネイト）（※）」を導入しました。**

本プラットフォームでは、寄付者が**共感・関心を持った研究者に対し、直接寄付を行うことが可能**です。これにより、研究者の専門性や理念に共鳴した方々が、それぞれの「思い」に応じて支援できる、新たな寄付のかたちが実現します。山形大学では、理学部・並河教授による研究支援の寄付募集など、**研究者発信による特色ある取り組み**が始まっています。

山形大学では、「**共感で未来を拓く**」をキーワードに、地域・社会・未来をつなぐ寄付のかたちを提案してまいります。多様な研究の挑戦を、皆さまの共感によって支えていただくと幸いです。

※ iDonate（アイドネイト）について

iDonateは、研究者個人に対する寄付を簡便に行える新しい寄付プラットフォームです。

運営は各大学で構成される一般社団法人全国学術情報分析支援機構（iSess）が担い、日本の学術研究を支えるための社会的仕組みとして設計されています。

iDonate公式サイト：<https://www.idonate-all.jp/about>



【寄付の方法】

寄付をご希望の方は、「iDonate」公式サイト上で支援したい山形大学の研究者を選び、クレジットカード、コンビニ振入、銀行振入（ネットバンク）、ペイジー、および払込取扱票（振込用紙）を利用して寄付いただけます。

寄付金は全額が山形大学へ送金され、山形大学基金を通じて当該研究者に研究費として配分されます。なお、iDonateを通じての寄付は税優遇措置の対象となります。

（お問い合わせ）

山形大学総務部総務課 社会共創推進事務室（山形大学基金担当） 樋口、田苗

TEL 023-628-4280, 4497 メール yu-kikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

研究応援で、社会をより良く変える。

研究者と個人・企業サポーターをつなぐ応援寄付プラットフォーム



研究者へ
直接寄付できる！
**大学
公認**

iDonate (アイドネイト) は、
大学の研究者と、研究を支援したい個人を直接つなぐ応援寄付プラットフォームです。
ソーシャルグッドな研究に取り組む研究者と、研究に共感するサポーターとの
新たな関係性を生み出し、より良い未来を共創します。

一般社団法人（非営利型）全国学術情報分析支援機構 [iSess：アイセス]

iSess は、研究コミュニティに新たな "つながり" を生むシステムの開発・提供を通じ、
日本の未来を担う研究者を支援しています。

..... 応援寄付を通じてできること

iDonateは、“研究のチカラ”を実現するための応援寄付サイトです。

医療、エネルギー、環境、防災など関心のある分野の研究を支援することで、研究者とともに社会をより良い方向へと動かしていきませんか。



子どもたちが 生きる未来に貢献できる

大学の研究の多くは成果が出るまでに長い時間がかかりますが、今始めて持続的に取り組むことで、未来の社会のあり方を変えます。iDonateはその原動力になります。



社会的な意義がある 研究を支援できる

社会的な意義が明確でも、ビジネスリターンは見込みにくい研究は少なくありません。iDonateは「利益より社会的リターンを求めたい」という思いの受け皿になります。



新しい知識、視点が 得られる

iDonateに参画する研究者は、最先端の研究の動向や成果を発信しています。社会課題や科学技術の最新トピックスにふれることで、自分の世界を広げていただけます。

..... 寄付の流れ

STEP01



見つける

興味のある研究カテゴリやキーワードから研究者を検索します。
研究紹介を読み、研究を通じて実現したい未来に共感できましたら、寄付をご検討ください。

STEP02



寄付する

「継続寄付」「1回寄付」から選び、クレジットカード・銀行振込・振込用紙請求等で500円から気軽に寄付ができます。研究者へのメッセージもぜひお願いします。

STEP03



見守る

お預かりした寄付金は、研究者が所属する大学を通じて研究者に配分されます。
その後の研究進捗も見守ってください。

特典・優遇措置

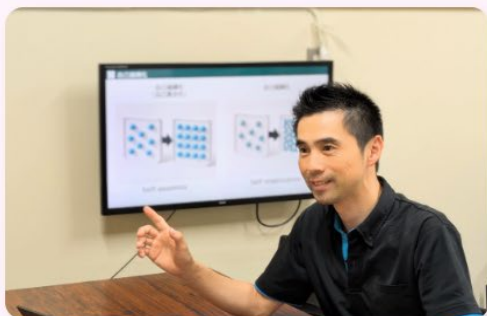
iDonateを通じた寄付は、税優遇措置の対象となります。

各大学が定めている返礼品も受け取ることができます。

詳しくは公式ホームページをチェック

<https://www.idonate-all.jp>





寄付する

♡ いいね

ナノテク・材料

ノーベル賞も支える「自己組織化」— 研究費10分の1の衝撃と、挑戦。

並河 英紀 教授

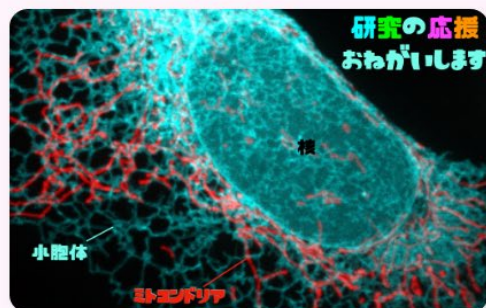
ナビカ ヒデキ

所属 山形大学 理学部

研究分野 ナノバイオサイエンス

キーワード 自己組織化、細胞膜、結晶、晶析、ナノ粒子、製剤、タンパク質、非平衡化学、非線形化学

台所にある食塩や石けんは、イオンや分子が「集まる」ことで生活に密着した機能を生み出しています。私たちは、この分子やイオンが「集まる」しくみ、すなわち「自己組織化」の研究をしています。とても基礎的な研究ですが、この自己組織化の研究はノーベル賞にもつながるモノづくりやライフサイエンスなど様々な分野を支えています。



寄付する

♡ いいね

📄 寄付方法・返礼品

🔗 シェアで応援

ライフサイエンス

健康長寿と持続可能な未来を拓く、ミトコンドリア・オルガネラの基礎研究

田村 康 教授

タムラ ヤスシ

所属 山形大学 理学部

研究分野 機能生物化学

キーワード ミトコンドリア、オルガネラコンタクトサイト、脂質代謝

私たちの研究室は、細胞内で働く「オルガネラ」、特にミトコンドリアについて研究しています。ミトコンドリアはエネルギーを生み出すだけでなく、脂質やアミノ酸の合成にも関わり、その異常は老化や神経変性疾患など多くの病気に直結します。私たちは、①オルガネラ膜を構成する脂質分子の細胞内輸送の仕組み、②オルガネラの形と量を制御する仕組み、③オルガネラ同士が接触する「コンタクトサイト」の役割を解明してきました。これらの成果は病気の理解や新たな治療法の開発につながります。さらに研究の過程で、スクアレンやエルゴステロールといった商業的に有用な脂質を大量に蓄える酵母菌を発見しました。スクアレンは化粧品や健康食品、さらにはワクチンの成分として需要が高まっていますが、従来は絶滅が危惧されるサメに依存してきました。私たちは酵母を「細胞工場」として改良し、環境にやさしく持続可能にこれらの脂質を生産する技術を確認し、特許も出願しています。基礎研究から医療や環境問題の解決までつながるこの挑戦を通じて、健康長寿と持続可能な未来を切り拓くことを目指しています。



寄付する

♡ いいね

ナノテク・材料

塗って作れる緻密な無機膜が、エコ社会に寄与！

硯里 善幸 教授

スズリ ヨシユキ

所属 山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター／理工学研究科化学バイオ工学専攻

研究分野 無機物質、無機材料化学

キーワード バリヤー層、印刷、無機膜、高耐久、低炭素プロセス

緻密な無機膜は色々な製品に利用されています。電気デバイス、薬、食品などを水蒸気や酸素から保護するバリヤー膜もその一つです。高いバリヤー性を持つ無機膜は「真空」を使った製造が一般的ですが、私たちは塗って作ることに成功しています！ これはとてもすごいことで、とてもエコな作製手法です。現在、ペロブスカイト太陽電池をはじめ、色々なものへの展開できるように研究しています！ また、さまざまな膜を作製してバリヤー膜以外への展開も行っています（ミラーなど）。 よろしくをお願いします！



寄付する

♡ いいね



寄付方法・返礼品



シェアで応援

医療

大細胞神経内分泌肺癌におけるPD-L1と予後の関係 -新規治療開発を目指して-

高森 聡 病院助教

タカモリ サトシ

所属

山形大学 医学部外科学第二講座

研究分野

呼吸器外科学

キーワード

肺癌

大細胞神経内分泌肺癌(LCNEC)は予後不良であり、IA期において術後補助化学療法を施行されない場合、5y-OSが50-54%との報告がある。

LCNECは希少癌であり、治療開発は遅れている。また術後補助化学療法は、非小細胞肺癌(NSCLC)に準じるとされるが、小細胞肺癌(SCLC)の治療選択をされることが多い。またIMpower010などNSCLCに対する周術期免疫チェックポイント阻害薬(ICI)の有効性の報告はあるが、LCNECの登録症例数は少なくその効果は不明瞭である。

さらに実臨床において、LCNECに対して小細胞肺癌レジメンが行われているが、PD-L1とICIの関係性および有効性は明確ではない。

本研究は、LCNECとPD-L1とICIの有効性及び長期予後の関係性を明らかにし、新規治療開発を行うことである。